

「防空に関する諸計画の実施状況並びに所見」 昭和二十年十月二十七日

大日本帝国政府（内務省・防空総本部・大日本防空協会）

（国立国会図書館蔵一米国戦略爆撃調査団報告）

大日本帝国政府

防空ニ關スル諸計劃ノ實施狀況並ニ所見

昭和二十年十月二十七日

表

防空ニ對スル諸計畫、施行、特ニ警防局トシテノ計畫ト施行ノ詳細（計畫ト實行トノ喰違ヒノ實情ト其ノ原因）

抑モ防空ノ諸計畫ハ支那事變當初既ニ内務省ニ於テ一應樹立セラレタルガ其ノ後防空法令ノ改正ニ伴ヒ關係各省（内務、厚農、軍需、農商、運輸通信各省）協力ノ下ニ策定ヤラルルニ至リ、總テ陸海軍ノ作戰ノ基ク空襲判斷ノ提示ノ基礎トシタリ從テ戰爭ノ推移ニ從ヒ防空ノ諸計畫モ逐次改訂ノ余儀ナクセラレタルナリ

今大東亞戰爭中ニ於ケル防空ノ諸計畫、施行特ニ警防局トシテノ計畫ト施行（主トシテ防空活動ノ指導）ニ付テ記述スレバ概ネ左ノ如シ

① 第一期（自開戰當初）
至昭和十六年末頃

(1) 計畫ノ内容

當初ニ於ケル防空ノ諸計畫ハ單ニ形式的ニ其ノ大綱ヲ定メタルモノニ過ギズシテ併モ其ノ基礎トナルベキ空襲ノ判斷ハ「例外的ニ小數機ガ散發的ニ侵入スルコトアルトモ知レザル」程度ナリシヲ以テ一應防空業務ニ付テノ計畫ヲ揭ゲ特ニ監視、通信、警報傳達、燈火管制等初動態勢ノ整備ニ實重點ガ置カレタリ

(2) 計畫施行ノ狀況

本件施行當時ハ空襲ノ危險性極メテ尠ク從テ官民指導層モ亦積極性乏シク其ノ實施ハ單ニ形式ニ隨シ徒ラニ計畫ノミ華カニシテ實施之ニ伴ハザル狀況ニアリタリ

(一) 第二期 (自昭和十七年一月至昭和十八年十月)

(1) 計畫ノ内容

昭和
春即チ四月十八日第一回ノ空襲ニ因リ「防空」ノ何タルト略明
ラカトナリコ、ニ防空ノ諸計畫ヲ漸次軌道ニ乘リ「小數散發的空襲」ニ對
スル防空計畫ハ一應現實ニ即スル如ク改訂整備セラレタリ、特ニ消防防火
、救護等積極活動面ニ重點ガ指向セラレ消防防火ニ付テハ官設消防、特ニ
機械化部隊ノ増設、警防團、隣組ニ於ケル「消防唧筒」「バケツ」「火叩
キ」等ニ依ル初期防火ノ強化及市町村並ニ公共團體等ノ救護機關ノ整備充
實並ニ隣組、警防團等ノ初期救護計畫一應整備セラレタリ

(2) 計畫施行ノ狀況

本計畫ニ對シ官民指導層ハ極メテ積極的ニ指導ヲ進ムル一面防空展覽會、
講演會、防空映畫等ノ普及ニ依リ國民防空ノ熱意ノ昂揚ヲ圖リタルニ依リ
國民大衆特ニ都會地ニ於ケル國民層ニ次第ニ其ノ效果ヲモタラシメ防空識能

ハ漸次向上ヤラレ、防空ノ施行ハ次第ニ其ノ諸計畫ニ順應シ得ルニ至リタ
リ

然レ共尙一部國民中ニハ防空ニ對スル熱意依然昂ラズ殆ンド傍觀的態度ノ
モノモ見受ケラレタルカ然シ乍ラ本件施行當時ハ大東亞戰爭ハ我方軍ニ有
利ナ狀態ニシテ且ツ僅カニ散發的空氣襲一回囿リタルニ止リ防空ノ諸計畫施
行ニ依リ別段齟齬ノ生ズル等ノ事例モナカリシナリ

(三) 第三期 (自昭和十八年十月
至昭和十九年八月)

(1) 計畫ノ内容

昭和十八年末頃ニ至リ歐洲ニ於ケル獨ソ、英ソ等ノ空中戰並ニ之ガ防空ニ
關スル報道、我軍ノ支那戰線ノ經驗ニ及其ノ後我本土タル北九州ニ對スル
相當機數ニ依ル空氣襲近代戰ニ於ケル空氣襲ノ實相明確化サルルニ及ヒ法令

上ノ措置トシテハ昭和十八年十一月防空法ノ改正ニ依リ防彈、分散疎開、轉換、清掃、非常用物資ノ備蓄並ニ之ガ配給等ノ

諸計畫モ樹立セラレタリ

特ニ從來燒夷彈攻撃ノミヲ對象トスル諸計畫ニ改訂ヲ加ヘ爆彈ニ對スル防彈、待避、避難ニ關スル諸計畫並ニ救護計畫ノ擴充強化及分散疎開ニ關シテハ人員ノ疎開、建物ノ疎開ヲ斷行スル一面事後ニ於ケル救恤面トシテノ非常用物資ノ備蓄並ニ之ガ配給ノ諸計畫ニ重點ガ指向セラレタリ

(2) 計畫施行ノ狀況

本件施行當時ニ於テハ戰爭ハ次第ニ我レニ不利トナリ國民亦防空ノ必要性ヲ痛感スルニ至リ國民防空ハココニ相當ノ進展ヲ見ルニ至リタリ

然ルニ一面戰爭ノ長期化ニ伴ヒ資材輸送、其ノ他ニ極メテ逼迫ヲ來タシ計

ニ立チ至リタリ
盡 遂 行 ニ 多 大 ノ 支 障 ア リ タ ル ノ ミ ナ ラ ズ 其 ノ 一 部 ハ 遂 ニ 實 施 シ 得 ザ ル 状 況

第四期（自昭和十九年九月
至全二十年二月）

(1) 計畫ノ内容

昭和十九年九月具ニ至リ空襲ハ次第ニ激化シ防禦ノ指導實國民ノ一部ニ
ハ空襲ノ體驗ヲ得ルニ至リ又一方大東亞各戰域ニ於ケル戰爭ノ體驗ヲ經
タル軍部指導實等ニ依リ從來ノ防禦ノ計畫ニ對シ批判的トナリ茲ニ防
空計畫ハ檢討ヲ要スル状況ヲ呈スルニ至リタリ

例ヘハ待避施設、待避ノ方法、消防防火施設及之カ指導方法、救護施設
及之カ實際活動方法^{並ニ}防空各業務ノ關聯等^{並ニ}防空全般ニ亘リ各種ノ計畫ニ
檢討ヲ加ヘラルルニ至リタリ、空襲判斷ニ於テモ「數百機ヲ以テスル噴
夷彈及二百五十級爆彈ニ對スル」計畫カ樹立セラルルニ至リタリ

(2) 計畫施行ノ内容

然ルニ改正防空法ニ依ル各省所管ノ防空指導ノ影響ニ因ル軍、官各指導
管ニ於ケル指導方針ノ不統一及實踐ニ依ル國民ノ防空片法等ニ因リ防
空計畫ノ施行ハ殆ント混亂状態トナリタリ

然シ乍ラ本件施行當時ハ相當機敏ノ空襲アリタルニモ不尙其ノ空襲規模
ハ防空ノ種^諸計畫ニ比シ未タ比較的ニ大ナラサリシ爲テ計畫ニ甚々シキ不
備缺陥ハ認めラレス即ツテ一部指導管ノ中ニハ防空必勝ノ確信アリトス
ルモノ等散見セラルル状況ニアリタリ

(五) 第五期(自昭和二十年三月
至終戰)

(1) 計畫ノ内容

戰勢愈々我ニ不利トナリ次第ニ我カ本土ニ對スル空襲激化シ來リタリ
特ニ昭和二十年三月十日夜間ニ於ケル東京空襲ニ於テハ^莫大ナル被害ヲ

受ケ其ノ際防空活動者ノ大半ヲ戰災死傷ヤシメ反面防空活動ニ因リテ何等
災害防止上益ナカリシコト判明スルニ及ヒココニ防空ノ諸計畫ハ根本的
改訂ノ余儀ナクセラレタム

即チ緊急措置トシテ徹底シタル人員、建物、家財等ノ疎開分散、待避施設
ノ強化就中横穴式防空壕ノ整備、空襲ノ目標トナル虞レアルモノ等ニ付テ
ハ婦ニ人員ノ遠隔待避並ニ之ニ必要ナル施設ノ整備、老幼婦女子ノ事前避
難對策、救護施設ノ整備擴充救恤物資ノ疎開備蓄及避難者輸送對策等專ラ
消極的防空ニ重點ヲ指向スルニ至レリ

(2) 計畫施行ノ狀況

本計畫施行當時ハ既ニ資材、輸送、勞務、食糧等益々急迫狀態ニシテ凡ユ
ル努力ヲ傾倒スルモ尙其ノ大半ハ達成セラレズ

加ヘテ空襲ノ様相ハ更ニ千變萬化シ遂ニ防空ノ諸計畫ハ施行不能ニ陥リタ
リ、併モ大ナル空襲其ノ頻度ヲ増シ防空指導層ハ當面ノ災害處置ニ忙殺セ
ラレ計畫ノ施行ノ如キハ殆ンドカヘリ見ラレザルニ至リタリ

之ヲ要スルニ防空ノ諸計畫ノ樹立ハ結局透徹セル空襲判斷ヲ必要トスル
モノナルニ軍指導層ニ於ケル之ガ判斷ヲ誤リタルト戦局ノ急速變ニ對シ國
民防空ノ如キ廣汎且ツ多岐ニ亘ル行政ニアリテハ克ク之ニ照應シ得ラレザ
ルニ立至リ難タルモノト認メラル

以
上

第二 戰爭中ノ一般市民ノ防空指導ニ對スル受人態度ノ實情

戰爭勃發前後ニ於テハ各種防空訓練ヲ通シ當局ノ熱心ナル指導ニモ不拘一
部傍觀的、樂觀的態度ニ出スルモ、妙カラサリシモ其後本土第一回ノ空襲
ヲ機機トシテ國民ノ防空ニ對スル意識漸次昂揚シ一攸團結防空必勝ノ精神
的要素ヲ整フニ至リタルカ本空襲ニ因リテ蒙リタル被害僅少ナリシ爲防空
ニ對スル國民ノ態度亦之易觀ヲ生シ然モ其ノ狀態ニ於テ相亞テ熾烈ナル空
襲ヲ受ケタル結果國民ノ防空ニ對スル自信ハ搖キ反動的ニ逃避的態度ヲ採
ルニ至リ且ツ軍官ノ指導性漸ク統一ヲ缺クニ到リタリ之カ狀況概ネ左ノ如
シ

一 準備時代(第一期)

戰爭勃發當時ニ於テハ軍官ノ指導ハ監視、通信、灯火管制等ニ重クテ置

キタル結果トシテ防空ニ對スル國民ノ態度ハ積極的指導ニモ不問突然
岸ノ火災視シテ全般ニ防空ノ普及徹底ヲ決キタリ殊ニ軍ノ空襲ニ對スル
指導ハ全ク考慮ノ余地ナシト迄斷シタル結果國民亦防空訓練ヲ以テ遊
戲的觀念ヲサエ生スルニ至リタリ

二 訓練時代（第二期）

昭和十七年四月十八日第一回ノ本土空襲以後ニ於テハ從來ノ遊戲的觀
點カラ脱却シテ漸ク真剣トナリ防空必勝ノ精神昂揚セラレ訓練ニ亞ク
訓練ヲ以テ終始シタル觀アリタリ然レ共本空襲被害僅少ナリシト其後
ニ於ケル戰況ハ何等不安ナキ狀況ニアリタルト時日ノ經過ト共ニ漸次
防空ニ對スル自信ト交易感ヲ生スルニ至リ從而當局ノ熱心ナル指導ニ
對シテモ訓練演技ノ上達ヲ遂ケタルカ防空實戰即應ノ氣魄ニ乏ホシク

其ノ自主性ハ反ツテ失ハルルニ至レリ

三、整備時代（第三期）

戦局ノ推移ト共ニ獨逸ハンブルグニ於ケル大空襲ノ情報及支那大陸方面ニ於ケル吾軍ノ空襲判斷等ヨリ漸次空襲ノ可能性増大スルニ至リ軍ハ先ツ從來ノ防空訓練ニ對シテ之カ是正ニ努ムルト共ニ官亦之ニ呼應シテ空訓練ノ強化ヲ來シタル結果國民亦狼狽シテ消防防火救護等ニ對スル實戰即應ノ態勢ヲ整へ積極的ニ待避壕ノ構築、防空資材ノ整備ニ自ラ努力ヲ傾到スル等漸ク防空ノ自主性ヲ回復スルニ到リ國民防空ハ其レ自身ノ手ニ把握スルニ至レリ

四、活動時代（第四期）

戦局ノ變轉ト共ニ本格的空襲ハ漸次熾烈ノ度ヲ加ヘ來リタル結果國民ハ

極度ニ狼狽シ加フルニ至ルハ急速度ニ進展シテ其ノ規模又大トナリ軍官ノ積極的指導ニ不拘國民防空ハ全ク自信ヲ失ヒ反面軍官ノ指導ハ空襲ノ進展ニ對シテ所謂後手ノ跛行的ナル余リ其ノ間ニ於テ實際ト計畫トニ大ナル間隙ヲ生シ之カ爲其ノ指導ハ全ク混亂シ統一性ヲ失フト共ニ其ノ計畫亦待避、疎開等消極的防空ニ墮スルノ已ムナキ結果防空ノ國民全般ニ與ヘタル影響ハ遂ニ恐怖トナリ逃避トナリ爲ニ積極性ヲ失フニ至リ

更ニ本年三月十日大編隊ニ因ル夜間東京ノ大空襲ハ被害ノ意外ノ大ナル事實ニ鑑ミ一般ニ防空ニ對シテ絶望的觀念ヲ生スルニ至リ防空ヲ全ク拋棄スルニ至リタリ

第三 第一ニ對スル所見竝ニ反省

一 總括的意見

我々ノ防空ハ余リニモ精神的要素ニノミ重點ヲ注ギ而モ其ノ方法ハ資材ノ不如意ト相俟テ科學的水準低ク高度ノ粹ヲ結果セル空襲ニ對應シ得ザリシヲ卒直ニ認メザルヲ得ズ又之ガ指導ノ根本ヲ爲ス空襲判斷ニ缺々タルト緒戰ノ戰果ニ眩惑セラレテ防空準備ノ機ヲ失セル爲空襲ノ進度ニ即應スル能ハズ常ニ後手ヲ喫シ續々遂ニ後半ノ大空襲ノ前ニ施ス術無カリシモノト謂フベシ

二 諸計畫ヲ通シテノ所見

一、米國ノ空襲進度ハ常ニ我國ノ防空計畫ト準備ニ先行シ我々常ニ後手ノ立場ニ在リタリ

2、軍需生産ニ国力ノ重點ヲ傾注セザルニ得ず、爲勢ト防空ハ從的ニ

取扱レ生産ト防空ニ不一致ヲ生ジタリ

3、空襲判斷ノ齟齬ト資材ノ不足ニ由ル生産ト防空ノ不一致ノ爲軍官ノ指導ニ不統一ヲ生ジ又國民ノ指導ヲ受クル態度モ政府ノ指導ニ即應セザリシ憾アリタリ

4、後手豫想外ノ大空襲ヲ受ケ全ク處置ノ施シ様無カリシ原因ハ

(イ) 空襲ノ體驗無カリシ爲計畫ハ推測ニ依リ施策セラレ空襲判斷ハ其ノ實相ヲ把握シ得ザリシコト

(ロ) 木造都市ニ對スル防火措置ノ不十分ナリシコト

(ハ) 緒戦ノ戦果ニ眩惑セラレ防空準備ヲ怠リタルコト

(ニ) 漸ク空襲ノ熾烈ナルニ及ヒ起テ直ラントセラルモ資材ハ殆ンド軍需ニ

充當サレ防空強化ノ不能ナリシコト

(丙) 國民ハ空襲ニ由ル言語ニ絶スル大被害ノ前ニ氣魄ヲ失ト積極性ヲ失ヒタルコト

三 將來ニ對スル建設的意見

敗戰ノ日本ニ於テハ將來再ヒ戰爭ノ勃發スルコトヲ豫想^想シ得ラレズ從ツテ將來ノ防空ハアリ得ザルモノト信ズルガ故ニ防空ニ對スル將來ノ建設的意見トシテハ纏ツタ拘負ヲ有セザルモ只空襲ヲ體驗シタ反省ヨリ左記結論ヲ舉ゲ參考ニ資シ度イ

一、無計畫ニ政治、文化、産業、經濟等國家ノ中樞機能ヲ集中セル大人口主義ノ都市構成ハ防空的ニ極メテ危險ニシテ一回ノ空襲ニ依リ國家的致命傷トナルヲ免レ得ザルヲ以テ將來ノ都市ハ之等機能就中工場施設ノ分

散ト人口ノ過剩ヲ抑制スル計畫ノ下ニ構成セザルベカラズ

2 建築物ノ防火力強化、道路ノ擴張、空地（綠地）ノ設定ハ獨リ防空的面
ノミナラズ平時災害極限ノ見地ヨリスルモ不可缺ノ都市構成要件ナリ

3 都市消遣ノ組織、施設ノ整備ヲ圖ルコトハ防空ノ最大要件ニシテ併セテ
救護組織施設ノ整備ヲ圖ルコトノ肝要ナルコトヲ痛感セリ